



樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和4年1月31日

共通テスト終了～本校から142名受験

1月15・16日の両日にわたって共通テストが行われ、無事終了しました。本校からは142名が受験しました。コロナ禍が続く中での共通テストということで、受験対策のみならず感染症予防にも気を遣いながらの受験でした。受験生の皆さん、そしてご家族の皆様、本当にお疲れ様でした。

本校では22日、進路検討会で予備校等からの情報をもとに入試動向を確認。受験した生徒一人一人について状況を確認しました。これを最終的な受験校選択の際の指導に役立てています。

佐藤明彦進路部長は今年の状況について、次のように述べています。「今回の共通テストは数学を始めとした大幅な平均点の低下が目立ち、本校でも思うような点数が取れなかった生徒が多く出ています。ただ、各大学のボーダーも大きく下がっているので必要以上に悲観的になることはありません。個別試験の配点や内容も踏まえ、前期はもちろん、中期や後期も積極的に出願し、最後まで粘り強く頑張る是非合格を勝ち取ってほしいです。我々教員も



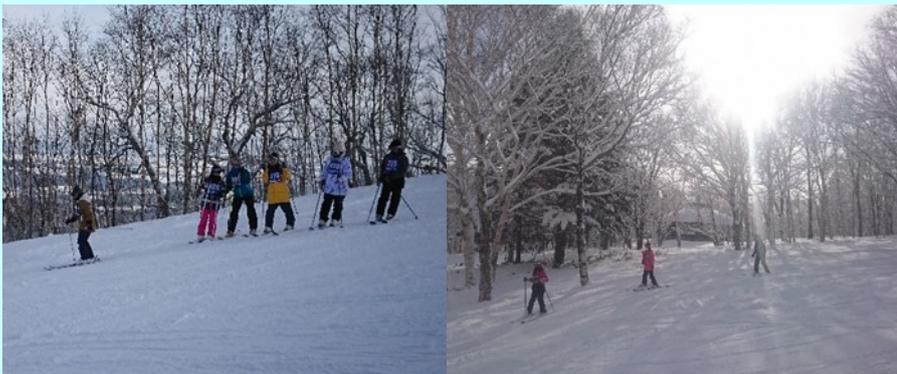
【2次試験対策に励む生徒たち】

講習などで全力でサポートしていきます。」

国公立入試2次試験の出願は2月4日（金）までとなっています。また私大受験も始まっています。コロナ対策を徹底して最後まで頑張ってください。

2年次スキー授業実施

今年度もコロナ対策を徹底した上でスキー授業を計画していましたが、残念ながらコロナ感染症拡大防止の観点から1年次のスキー授業は中止せざるをえませんでした。楽しみにしていた生徒の皆さんの思いを考えると苦渋の選択でありましたが、何卒ご理解いただきたく思います。また、関係者の皆様には急遽の中止にもかかわらずご対応いただきましたことこの場を借りてお礼申し上げます。2年次のスキー授業につきましては、怪我もなく終了することができました。体育科主任・今村教諭は「北海道の風土と特性を生かし、冬の生涯スポーツの1つとしてスキーやスノボードを楽しむ態度を養うことを目的に取り組んでいます。2年次生は昨年の経験から上達した姿が多く見られました。」と話していました。来年は思いっきりスキー授業を楽しめる状況になっていることを願います。



祝優勝

全国高校選手権スケート男子
500円で本校の阿部心哉選手
(3年2組)が36秒34で優勝
しました。今までの努力と栄誉を
ここに讃えます。

スケート部は、現在、3年の笠原光太郎、時安清貴、水戸咲良の3選手がオーストリア・インスブルックで行われるジュニアオリンピックに遠征中です。これらの結果については後日報告します。

三条生の活躍

全国高校ビブリオバトルがオンラインで行われ、図書館長の山川和哉くん(2年5組)が紹介した「夏と花火と私の死体」(乙一著)が準チャンプ本に選ばれました。この大会は全国高校生図書館サミットの一環として行われ、来年度は十勝で開催される予定です。



第19回 2-2担任・女子硬式テニス部顧問 香川 喜義 教諭

知ることには貪欲になってほしい！

◇忘れられない100周年記念式典

私は長らく同窓会事務局長を務めています。残念ながら今年も三条高校常磐同窓会はコロナの影響でほとんど活動ができませんでした。それでも同窓生が集う機会をなんとか作ろうと新年交礼会がオンラインでしたが開催されました。校長先生からパワーポイントで現在の三条高校の様子が伝えられ、総文祭で優秀賞をとった放送局のビデオを流しました。同窓生の皆さんから後輩たちの頑張っている姿に感動したというメッセージが届いています。

事務局長として一番の思い出は開校100周年記念式典です。吹奏楽部と合唱部の合同演奏や書道部のパフォーマンスの素晴らしさ。そして応援歌でフィナーレを飾った式典に、感動の涙を流す多くの同窓生の姿がありました。三条高校の歴史と伝統を感じながら、会場にいる全ての人たちが一体となった素晴らしい場面でした。今思い出しても胸が熱くなります。

◇私の転機はアメリカ留学

大学4年の時に交換留学でアメリカ・ネブラスカ州に1年間行きました。当時はインターネットもありませんので、日本の情報はなかなか入ってきません。そんな中で日航機墜落は現地でも大きく報道され、坂本九さんが亡くなったというニュースとともに、スキヤキソング（「上を向いて歩こう」）米ヒットチャート1位を獲得したことがあった）が流れたことをはっきりと覚えています。

留学して自分が日本について何にも知らないことに気付きました。知らないことを放っておいてやり過ごすのではなく、知ること

になるべきだと考えるようになり。そこから知らないことに向かってチャレンジしていく姿勢ができてきました。それがその後の人生を変えていくことになりました。

◇挑戦は続く

留学を終えて、すぐ就職活動です。結局、旅行会社と医療機器メーカーの2社の内定をもらいました。前者は札幌勤務、後者は東京勤務です。そこで留学で培ったチャレンジ精神がフツフツと沸き起こります。一生に一度は日本の中心、東京で働きたいと思い、医療機器を海外に輸出する仕事に就きました。その会社で2年間働きましたが、とにかく給料が低かったため、今度は得意の英語を武器に外資系企業に転職することにしました。新しい職場で外国人の上司から「受動態の文章は書くな」と教えられました。書類作成でも常に主語を示し責任の所在を明らかにする文化で、日本との文化の違いを突きつけられました。そして、また2年後、北海道に戻って教職に就くことを決意し、今にいたるのです。教員の道もチャレンジの連続です。浜頓別高校で教員のスタートをきり、滝川高校では進学指導に苦労しながらオールイングリッシュの授業に取り組み、そして母校である三条高校に赴任した時は45歳になっていました。今、4回目の担任も毎日が新しいことの連続です。



三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

第54回北海道高等学校新人バドミントン大会出場

キラリ

部長 2-3 内田 千晴さん 2-4 松村 蒼一朗くん



1月12日～15日に岩見沢で開催された全道新人バドミントン大会に男女ともに出場したバドミントン部両部長にお話を伺いました。

全道大会出場の感想を尋ねると、二人とも「男女ともに全道大会出場を決めたときは嬉しかったです。全道大会ではベスト4を目標にして届きませんでしたが、課題が見つかったことを前向きにとらえていきたいと思えます」と松村くん。内田さんは「十勝2位で全道に行けたのはとても嬉しかったです。全道では自分より強い人たちと試合ができて次の目標が明確になりました」と収穫が多かったと答えてくれましたが、目標に届かず悔しかったことが表情か

ら伝わってきました。

二人ともバドミントンは小学校から始めたということで「やってみたら楽しかった」と口を揃えます。その魅力を内田さんは「バドミントンは相手がいないとできない競技です。試合をする中で自分の実力がはっきりわかって次の目標ができるのが魅力です。多くの友だちができました」と語ってくれました。

部長として心掛けていることを二人とも「自分が手本となるようにすること」を挙げていました。加えて松村くんは「ミーティングをしっかりして、お互いのコミュニケーションを大事にしています」と言っていました。今後の目標を松村くんは「まずは春の高体連で全道ベスト4を果たします」。内田さんも「最近みんなで目標を全国出場と決めました」ときっぱり。練習は男女一緒にすることが多く、女子にとっては男子特有の力強さが、男子にとっては女子特有の粘り強いレシーブと頭を使ったプレーが互いに刺激となり、いい練習になるのだとか。男女ともにお互いの良さを認めつつ切磋琢磨している様子がわかりました。これからも頑張ってください。